

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Medicine.96(2017)e8518	B型肝炎ワクチン接種歴がある化学療法を受けた悪性リンパ腫患者において、血小板輸血後のB型肝炎が報告された。供血者は供血時、肝機能正常、HBsAb弱陽性、HBsAg、HBcAb、HBeAbは陰性、供血12週間後の検査では、肝機能正常、B型肝炎ウイルス(HBV) DNA検査検出限界以下、HBsAb陽性、HBcAbが弱陽性、HBeAb陽性、当該供血者は供血時に無症候性のB型肝炎より回復中であった可能性が示された。患者の感染機会を考慮すると、当該血小板輸血による感染が否定できないと報告された。
2	B型肝炎	Memorias do Instituto Oswaldo Cruz. 112(2017)544-550	ブラジル南部におけるB型肝炎伝播のリスク因子に関する報告。2014~2016年におけるCaxias do Sul出身のHBV感染患者260例及び対照260例を対象とし、HBV感染と関連するリスク因子を多変量解析した結果、統計的に有意な結果を示す変数は、HBVに感染した母親、父親又は兄弟姉妹の存在、私物の共有及び輸血歴を有することであった。
3	B型肝炎	ProMED-mail 20170830.5284369	アイルランドにおいて初の輸血によるHBV感染の報告。Irish Blood Transfusion Service (IBTS)によると、患者はウイルスが検出できない潜伏期間中の献血血液の輸血をされた後に感染した。この献血血液は輸血前の検査ではHBV陰性で、赤血球が患者に輸血された。その後、ドナーが検査でHBV陽性を示したため、輸血サービスが、保存用サンプルのフォローアップ検査を実施した結果、血液サンプルはHBV陰性であったが、追加のDNA検査の結果はHBVに対して陽性であった。
4	B型肝炎	ProMED-mail 20170830.5285519	上記ID.3の文献に対するコメント。IBTSでのドナー血液の検査方法、保管されていたドナー血液の検査方法、臓器のレシピエントの過去のHBV感染を否定する根拠等を問うものである。
5	B型肝炎	ProMED-mail 20170831.5287455	上記ID.3の文献に対するコメント。IBTSでは、HBVを含む血液媒介ウイルスのスクリーニングのため、すべての献血血液に対し、精度の高い方法で個別NATを実施し、HBs抗原および抗HBc抗体も検査している。今回のHBV感染は、個別NATに先行するウィンドウ期間に献血されたためであり、そのときのドナー血液におけるHBV DNAのレベルは、非常に感度の高いこの検査の検出限界よりも低いものであった。
6	C型肝炎	ProMED-mail 20171011.5374144	米国における違法な注射薬物使用によるC型肝炎感染症例増加に関する報告。ChillicotheのHopewell Health Centerによると、ナルトレキソン(本邦未承認)療法に参加した患者約500例の約70%が伝染性肝疾患に対して検査陽性であった。
7	C型肝炎	ProMED-mail 20171111.5438314	米国における違法な注射薬物使用増加によるC型肝炎感染症例増加に関する報告。Colorado Department of Public Health and Environmentによると、過去4年間で、Adams郡、Arapahoe郡、Denver郡及びDouglas郡における21歳から30歳の間でC型肝炎症例は3倍になっている。2012年には91例のみであったが、2016年には255例が確認された。2015年から2016年にかけて、151例から255例へ65%増加した。
8	C型肝炎	PloS one. 12(2017)e0185055-e0185055	2012~2016年のポーランドにおける肝線維症ステージ別のC型肝炎ウイルス(HCV)感染率及び関連リスク因子に関する報告。研究参加者21875例中102例がHCV-RNA陽性であった。HCV感染率は0.47%、有意な線維化は0.12%と推定された。有意な線維化を有する症例は、男性で51.6%、女性で34.4%であった。HCV感染率と年齢との間に相関を認めなかった。違法な注射薬物使用歴、男性のHCVに感染した性的パートナーとの交際歴及び女性の帝王切開の経験と同様に、1992年以前の輸血歴は有意な線維化との関連を強く示唆された。有意な線維化を認めないHCV感染関連因子は、男性の入れ墨及び女性の若年であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
9	C型肝炎	肝臓. 58(2017)307-309	日本におけるC型肝炎患者の感染時期別及び感染経路別のHCV遺伝子型に関する報告。水戸地域在住のC型肝炎患者405例を対象に、serogroup (SG)と感染経路との関係についてgenotype (GT)を再解析した。GTは、1b型が223例(55%)、2a型が115例(28%)、2b型が58例(14%)で、1a型や3a型などの稀な例も9例認めた。水戸地域においては、HCVのGTは主に輸血によって1b型が多数を占めていたが、輸血血液のHCV検査が徹底された1992年以降においては、輸血に起因するHCV感染が激減した時期と一致し、従来少数ながら認めた薬物乱用又はピアスなどによる感染経路からの2a型又は2b型のHCV感染が相対的に増加傾向を示した。
10	E型肝炎	Journal of viral hepatitis. 23(2016)569-575	フランスでの反復輸血が施行された免疫機能正常患者における輸血によるE型肝炎ウイルス(HEV)の伝播、輸血製剤の血清陽性率等に関する報告。先天性異常ヘモグロビン症、後天性慢性貧血及びその他血液障害による定期的赤血球(RBC)輸血を要し、反復輸血を施行されたフランス、パリ地域在住の免疫機能正常患者98例を対象とした。対象98例中1例(25歳男性、鎌状赤血球症患者)でセロコンバージョンを認めた。2008年3月～2010年7月の追跡では、当該患者から6検体が採取され、2010年7月に採取した検体のみがIgGに対する検査で陽性を示した。セロコンバージョンの13カ月前に輸血された血液製剤5製剤全てでHEV-IgM、RNAに対する検査で陰性を示したが、セロコンバージョンの9カ月前に輸血されたRBC 7製剤中1製剤でIgM、IgG陰性、HEV-RNA陽性を認め、輸血によるHEV伝播の可能性が示唆された。
11	E型肝炎	PHE Health Protection Report. 2017/07/28	2016年、英国のUK Blood Servicesは、輸血レシピエントにおいて細菌感染が疑われる108件の事例と、ウイルス感染が疑われる18件の事例を調査した。これらの調査は、1例のみがHEVの輸血感染によるものであり、患者は2015年10月～2016年1月に複数回の輸血を受けていたと結論付けた。英国において、スクリーニングされた血液成分におけるHBV、HCV及びヒト免疫不全ウイルスの伝播リスクは非常に低い。しかし、血液安全監視を維持するため、レシピエントについて輸血を介した感染が疑われる場合には調査が行われている。
12	E型肝炎	ProMED-mail 20170821.5264392	英国のPublic Health England (PHE)の科学者らがまとめた分析によると、輸入され、英国の主要なスーパーマーケットで販売されている一部の製品により伝播されたHEVに、豚肉を摂取した数千人の英国人が既に感染している可能性がある。専門家は感染者60例の購買習慣を調査した。PHEは、2010年～2016年にE型肝炎の確定例数及び感染数が著しく増加したと警告した。
13	E型肝炎	Transfusion. 57(2017)244-247	急性E型肝炎は、先進国では通常、加熱不十分な肉若しくは生肉の摂取又は取扱いに関連しており、輸血伝播E型肝炎については、免疫不全患者においてまれに報告されているのみである。今回、真菌性動脈瘤の手術の入院中にRBC輸血を受けていた患者において肝機能検査値の悪化が見られ、急性E型肝炎と診断された。遡及的に調査を行ったところ、輸血に使用されたRBC製剤のうちの1つ及び患者の血清検体において同一のHEV株(G3)を認めた。検出可能なHEV RNAを含有するRBCの免疫能正常者への輸血は、急性E型肝炎のリスク因子である。
14	E型肝炎	臨床血液. 57(2016)1672-1672	日本における輸血により発症した可能性があるE型肝炎の感染報告。41歳女性。出産前の定期検診時に急性骨髄性白血病(AML)と診断された。帝王切開出産後、導入化学療法により治療され、完全寛解に至った。地固め化学療法中、真菌性眼内炎を合併し、眼科手術を施行、化学療法を中止した。AST及びALTが各857 IU/L及び1172 IU/Lへ増加したため、スクリーニング検査を実施した。血清IgA-HEV陽性であったため、E型肝炎と診断された。HEV-RNAに対する献血の遡及的スクリーニングを実施し、供血者がE型肝炎患者であると判明した。患者HEV-RNA及び供血者HEV-RNAが遺伝学的に同一であると判定することはできなかった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
15	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20170606.5087079	米国におけるA型肝炎のアウトブレイク並びにB型肝炎及びC型肝炎の報告 [1]2017年初頭より、San Diego郡Health and Human Services AgencyのPublic Health Services Divisionは、この地域で発生しているA型肝炎のアウトブレイク1件について現在も調査している。現在のところ、当該アウトブレイクの感染源は依然として判明していない。なお、San Diego郡における2017年5月30日時点でのA型肝炎アウトブレイクの内訳は、症例133例、死亡3例、入院106例である。[2]San Diego郡における発生中のA型肝炎アウトブレイクで報告された症例は2017年5月30日付で133例、2016年11月24日から2017年5月26日の間に発症した。年齢範囲は21-82歳、85例(64%)は男性で、うち1例は男性との性交渉を有していた。85例は注射剤又は非注射剤による不法薬物使用経験を認めた。検査結果が参照可能な症例106例中28例(26%)がHCV感染症であり、107例中7例(7%)がHBV感染症であった。CDCは、アウトブレイク86例の血清サンプルにおいてHAV RNAを確認している。
16	A型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20170707.5158430	米国におけるA型肝炎及びC型肝炎の感染並びにA型肝炎の感染症増加に関する報告。Michigan Department of Health and Human Services (MDHHS)によると、Macomb郡、Oakland郡、Wayne郡及びSt Clair郡と同様に、Detroit市でA型肝炎確定例約190例を認めている。当該症例は2016年8月1日から2017年6月26日の間に発生し、前年同期間から約10倍増の症例数を示している。同局によると、年齢範囲は21-86歳、平均年齢は44歳で、確定例の66%が男性、患者の87%が入院している。また当該感染症は、不法薬物使用、性行為及び家族間の濃厚接触を通じて人から人へと伝播しているとみられる。症例の半数は薬物乱用歴があり、20%はHCVに感染している。
17	B型肝炎、C型肝炎	PLoS one. 12(2017)e0178883- e0178883	台湾の輸血依存性サラセミア及び血友病患者におけるウイルス性肝炎に対する血清陽性率並びに臨床的特徴に関する報告。ウイルス性肝炎及びHCV自発的クリアランスに関連する因子及び有病率について評価するため、登録された患者計140例において、HBV及びHCVに対する血清学的検査並びにウイルス学的検査を実施した。1992年以降に生まれた患者でサラセミア患者のHCV血清陽性率は劇的に減少した。1987年以前に生まれた患者と1987年以降に生まれた患者との比較では、血友病患者におけるHCV血清陽性率は有意に減少した。また、HBVワクチン接種後のコホートにおいて、対照集団と比較してHBV血清陽性率は有意に減少した。輸血依存性患者におけるHBV及びHCV感染症の有病率は、過去の台湾では非常に高かったが、HCVスクリーニング及びHBVワクチン接種導入後では血清陽性率は有意かつ劇的に減少した。
18	ウイルス性肝炎	https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM574574.pdf/2017/09/01	米国食品医薬品局 (FDA) より、満11歳以降のウイルス性肝炎既往歴により供血延期とされた供血者のリエントリーに関するガイダンスが発出された。ウイルス性肝炎の既往のある供血者は無期限供血延期とされていたが、HBV及びHCV以外のウイルス性肝炎の既往により供血延期とされた供血者については医師による問診等の評価により、リエントリー可能となった。
19	ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス1型感染	J Clin Microbiol. 55(2017)2838-2849	ヒトT細胞白血病ウイルス1型 (HTLV-1) のプロウイルスが低濃度であること及び突然変異を有することにより抗原産生量が減少し、抗体産生量も低下することで、ウェスタンブロット法の結果が判定保留となる可能性が示された。
20	インフルエンザ	CDC FluView. August 12, 2017	第32週(8/6~8/12)に3つの州(ノースダコタ州、オハイオ州及びペンシルベニア州)よりインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染3例が報告された。
21	インフルエンザ	CDC FluView. August 26, 2017	第34週(8/20~8/26)に米国オハイオ州でインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。このウイルスのヒト-ヒト感染は確認されていない。2017年において、現在までに米国で報告された変異型ウイルス感染の総数20例のうち18例がインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルス感染(テキサス州1例、ノースダコタ州1例、ペンシルベニア州1例及びオハイオ州15例)で、2例(オハイオ州)はインフルエンザA(H1N2v)ウイルス感染であった。
22	インフルエンザ	CDC FluView. September 30, 2017	第39週(9/24~9/30)にメリーランド州で6例、ミシガン州で1例のインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染が報告された。
23	インフルエンザ	CDC FluView. October 21, 2017	第42週(10/15~10/21)にオハイオ州でインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
24	インフルエンザ	CDC FluView. October 28, 2017	第43週(10/22~10/28)に3つの州(コロラド州、ネブラスカ州及びミシガン州)より変異型インフルエンザAウイルスのヒト感染3例が報告された。ネブラスカ州及びミシガン州の2例はインフルエンザA(H3N2v)ウイルスでコロラド州の1例はインフルエンザA(H1N2v)ウイルスであった。
25	インフルエンザ	CDC FluView. November 18, 2017	第46週(11/12~11/18)にアイオワ州でインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。
26	インフルエンザ	CDC FluView. December 15, 2017	新型インフルエンザAウイルスのヒト感染例1例がアイオワ州から報告された。本症例は、インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスに感染し、発症の前週にブタへの密接な接触をしていたと報告された。ヒト-ヒト伝播は確認されていない。また、この患者は50歳未満の成人で、入院せずに完全に回復した。
27	インフルエンザ	CDC FluView. December 9, 2017	第49週(12/3~12/9)にアイオワ州でインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。
28	インフルエンザ	CDC MMWR. 66(2017)1043-1051	2017年5月21日~9月23日の間に発生したアメリカでの変異型インフルエンザAウイルスのヒトへの感染について記載。新規症例としてデラウェア州でインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。
29	インフルエンザ	ProMED-mail 20180214.5628629	香港の衛生部衛生保護は、トリインフルエンザA(H7N4)ウイルスによるヒト感染例が2018年2月10日~14日に確認されたと国家衛生・計画生育委員会から通知を受け、個人衛生、食品衛生及び環境衛生を厳重に保持するよう注意喚起した。本症例は世界で初めてのヒトのインフルエンザA(H7N4)ウイルス感染症例である。患者は江蘇省常州市Liyang在住の68歳女性患者で、2017年12月25日に症状を発症した。女性は治療のため2018年1月1日に入院し、2018年1月22日に退院した。女性は症状の発現前に生きた家禽と接触していた。医学的調査期間中、女性と密接に接触したヒトには症状がみられなかった。
30	インフルエンザ	ProMED-mail. 20170930.5350726	2017年9月27日、Delaware Division of Public Healthは、メリーランド州Sussex郡の住民(女性、18歳未満)における同州で初めての変異型インフルエンザA(H3N2v)ウイルスの確定例について発表した。2017年9月24日の週に軽度のブタインフルエンザ症例の小児2例がFrederick Memorial Hospitalに来院したことを9月27日に広報担当者が確認した。同州では合計5例の住民がAnne Arundel County FairとGreat Frederick Fairでブタと密接に接触した後に検査でブタインフルエンザ陽性と判定された。5例全てがインフルエンザA(H3N2v)ウイルスと診断された。
31	インフルエンザ	WHOホームページ. http://www.who.int/entity/influenza/vaccines/virus/201709_zoonotic_vaccinevirusupdate.pdf?ua=1	2017年2月28日~9月25日の間に発生した米国での変異型インフルエンザAウイルスのヒトへの感染について記載。新規症例として、メリーランド州でインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染31例が報告された。
32	インフルエンザ	WHOホームページ. http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_25_01_2018_FINAL.pdf?ua=1	2018年1月16日、スイスはブタインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスに感染したヒト症例1例についてWHOに情報提供した。
33	インフルエンザ	Zoonoses Public Health. 65(2018)e148-e154	2015年に米国の6つの州で、2016年に4つの州で採取したウマ血清サンプルを、インフルエンザD型ウイルス(IDV)2系統(D/OK、D/660)とIDVIに近縁なインフルエンザC型ウイルス(ICV)1系統(C/JHB)に対するHI法、MN法で検査した結果、いずれの系統も陽性のサンプルが認められた。
34	鳥インフルエンザ	OIE Weekly Disease Information. 2018/01/12	2018年1月10日、香川県肉用養鶏場におけるトリの死亡数の増加が報告された。調査の結果、死亡個体および生存個体由来のサンプルが鳥インフルエンザウイルス陽性であること、ウイルスは高病原性鳥インフルエンザ(H5N6)ウイルス亜型であることが判明した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
35	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20171104.5419594	ロシアにおいて鳥インフルエンザA(H5N8)ウイルスによる初めてのヒト感染例が確認された。2017年10月31日、ロシア連邦消費者権利保護福利監督庁長官は、以前はトリでしかみられなかったH5N8による無症候性ヒト感染の可能性症例が、ロシアの研究者により確認されたと発表した。感染者は本ウイルス感染流行中にトリの世話をしていたことが分かった。臨床症状はほとんどなく、血清から鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスおよび本ウイルスの抗体が検出された。
36	鳥インフルエンザ	WHOホームページ. http://www.who.int/csr/don/22-february-2018-ah7n4-china/en/	香港の衛生部衛生保護は、トリインフルエンザA(H7N4)ウイルスによるヒト感染例が2018年2月10日～14日に確認されたと国家衛生・計画生育委員会から通知を受け、個人衛生、食品衛生及び環境衛生を厳重に保持するよう注意喚起した。本症例は世界で初めてのヒトのインフルエンザA(H7N4)ウイルス感染症例である。患者は江蘇省常州市Liyang在住の68歳女性患者で、2017年12月25日に症状を発症した。女性は治療のため2018年1月1日に入院し、2018年1月22日に退院した。女性は症状の発現前に生きた家禽と接触していた。医学的調査期間中、女性と密接に接触したヒトには症状がみられなかった。
37	ウエストナイルウイルス感染	Transfusion. 57(2017)850-856	米国では、輸血伝播ウエストナイルウイルス(WNV)感染予防のため、ミニプール(MP)献血血液の核酸増幅検査(NAT)がまず行われ、MP-NATにより特定された地域的なWNV活性にもとづき、個別献血血液(ID)のNATが実施される。今回のケースでは、心疾患の治療で成分輸血を受けた患者がウイルス感染症状のため退院後12日目に再入院し、無菌性髄膜炎と診断され、51日目に死亡した。蚊媒介性の伝播の可能性はあるが、本症例は、ID-NATへの切り替えの直前に採血されたMP-NAT無反応の献血血液による輸血伝播WNVの症例と考えられた。8400万件の献血のうち1件というまれな事象であった。
38	日本脳炎B型	AABB Weekly Report. 23(2017)37-37	香港における輸血による日本脳炎ウイルス(JEV)伝播の報告。無症候性ドナーが提供するJEV陽性血液および血小板輸血を受けた患者2例が香港においてJEVに感染した。初発患者1例(52歳男性)は進行性の慢性閉塞性肺疾患を有しており、両肺移植術後、3回の濃厚赤血球輸血を受けた。当該患者は移植の約2カ月後、一過性の斑点状丘疹および発熱を呈した。調査担当者は感染経路を献血者までたどり、検査の結果輸血感染によるJEV感染を確認した。同担当者は、血小板輸血によりJEVに感染した2例目の無症候性患者を特定した。
39	日本脳炎B型	Emerg Infect Dis. 24(2018)49-57	香港における輸血によるJEV伝播の報告。無症候性ドナーが提供するJEV陽性血液および血小板輸血を受けた患者2例が香港においてJEVに感染した。初発患者1例(52歳男性)は進行性の慢性閉塞性肺疾患を有しており、両肺移植術後、3回の濃厚赤血球輸血を受けた。当該患者は移植の約2ヶ月後、一過性の斑点状丘疹および発熱を呈した。調査担当者は感染経路を献血者までたどり、検査により輸血感染によるJEVを確認した。同担当者は、血小板輸血によりJEVに感染した2例目の無症候性患者を特定した。
40	日本脳炎B型	IASR. Vol.38(2017)3-4	2015年8月に千葉県で発生した日本脳炎の乳児例の報告である。10カ月男児。入院3日前より発熱。入院前日より傾眠となり、覚醒時は眼球が左を向く事が多くなった。入院当日、発熱、意識障害、左眼球偏位を認め、脳炎・脳症の疑いで入院した。検査の結果、髄液からRT-PCR法にてJEVが検出された。生活歴として、患者の自宅近くには水田が多く、児は頻りに蚊に刺されていた。また、自宅から10km以内に養豚場が点在し、約500m離れたところにはブタの食肉工場があった。
41	セントルイス脳炎	Transfusion. 57(2017)2987-2994	2015年9月、アリゾナでの腎臓移植患者においてセントルイス脳炎ウイルス(SLEV)感染が確認され、感染源を特定するための調査が開始された。蚊伝染性感染の可能性を判定するため、患者及び献血施設で収集された蚊のサーベイランスデータを検討した。また他の曝露経路を調査するために、臓器及び血液ドナー及びレシビエント標本を入手し、SLEV感染について試験をした。このうち、輸血によって患者に投与された血液製剤の4人のドナーのうち1人は血清学的に確認された最近のセントルイス脳炎感染症を有していた。輸血によるSLEV感染の初めての報告である。
42	チクングニヤウイルス感染	Euro Surveill. 39(2017)pii=17-00646	イタリアにおける2度目のチクングニヤ熱のアウトブレイクがローマ県の沿岸地域であるAnzioで発生し、対象地域では現在、ベクターコントロール、サーベイランスの強化及び供血制限を行っている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
43	黄熱	ProMED-mail 20170907.5300073	ブラジルのHealth Ministryは、過去9カ月にわたり250例を超えるヒトが死亡した黄熱のアウトブレイクが終息したと宣言した。2017年9月6日、当局はその蚊媒介性疾患の最後の症例の発生は6月であり、合計777例のヒトが感染し、そのうち261例が死亡したと述べた。同国の黄熱症例は例年少数であり、アウトブレイクは極めて稀である。また本疾病はこれまでリスクがあると考えられていなかった、ワクチン接種率の低い地域でも発生した。
44	デング熱	ProMED-mail 20170827.5268651	National Cheng Kung Universityの微生物学および免疫学の教授によると、台湾で腎臓のレシピエント2例が同一のドナーからそれぞれ腎臓の移植を受けた2日後にデング熱と診断され、ドナーが2015年に保有していたデングウイルス株と同じ株に感染していたことが確認された。ドナーの血液からデングウイルスは検出されなかったが、ウイルスはおそらく腎臓に存在しており、移植後にウイルスが活性化した可能性がある。
45	パルボウイルスB19感染	臨床血液. 57(2016)1676-1676	日本における赤血球輸血によるパルボウイルスB19感染症の報告。64歳男性。糖尿病性腎症により5年間血液透析を受けており、出血性腸炎に対する赤血球輸血を施行された。赤血球輸血後3カ月間、持続的な高熱および進行性の血小板減少をきたした。骨髓検査において巨赤芽球を認め、血清および骨髓検体の両方においてパルボウイルスB19-DNA陽性を示したため、パルボウイルスB19感染症と診断された。赤血球輸血由来検体ではパルボウイルスB19 DNAのレベルは低かった(1.0×10^4 IU/mL)が、パルボウイルスB19に対する相同性検査で赤血球輸血を介した伝播が確認された。
46	サル痘	J Infect Dis. 216(2017)824-828	コンゴ民主共和国のコホート研究において、症候性サル痘ウイルス(MPXV)に感染した222例の患者が登録された。4例は妊婦で、軽度の感染を有した1例の出産は健常であった。2例は早期自然流産となり、1例は死産であった。死産となった胎児は、手のひらや足の裏を含む四肢、頭部、胴体のびまん性の皮膚黄斑病変といったMPXV感染症の明らかなエビデンスを有しており、高ウイルス量であった。流産または死産に至った女性3例は中等度あるいは重度のMPXV感染症であった。
47	サル痘	PHE. https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/658836/Emerging_infections_summary_October_2017.pdf	コンゴ民主共和国のコホート研究において、MPXVに感染した222例の患者が登録された。4例は妊婦で、軽度の感染を有した1例の出産は健常であった。2例は早期自然流産となり、1例は死産であった。死産となった胎児は、手のひらや足の裏を含む四肢、頭部、胴体のびまん性の皮膚黄斑病変といったMPXV感染症の明らかなエビデンスを有しており、高ウイルス量であった。流産または死産に至った女性3例は中等度あるいは重度のMPXV感染症であった。
48	ジカウイルス感染	CDC MMWR. 66(2017)366-373	米国におけるジカウイルス(ZIKV)感染の報告。2016年1月15日~12月27日の調査期間中、U.S. Zika Pregnancy Registry (USZPR)に、ZIKV感染の可能性のある妊婦が1297例報告された。また、ZIKV感染の可能性を示す臨床検査値を有する胎児又は乳児が972例報告され、うち51例でZIKV関連の先天性異常が報告された。
49	ジカウイルス感染	Lancet Infect Dis. 17(2017)813-821	2016年8月にシンガポールにおいて発生したZIKV感染のアウトブレイクに関する報告。2016年8月27日~11月30日において、ZIKV感染症例が455例確認された。アウトブレイクの第一段階において国立委託病院を受診した感染確定例163例のうち97例の血液検体及び157例の尿検体からZIKVが検出された。集団感染が発生した15カ所のうち12カ所は、ネットアイマカの繁殖率が高い地域であった。捕獲したカのスクリーニング検査では、2%がZIKV陽性であった。また、集団感染が発生した地域においては住民と協力したベクターコントロールが実施され、それにより、カの繁殖数が減少したことが推定された。
50	ジカウイルス感染	Transfusion. 56(2016)1684-1688	輸血を介したZIKV伝播に関する報告である。ある血液ドナーの献血後の申し出により検査したところ、献血検体はZIKV陽性であり、肝移植患者にプール濃縮血小板の輸血が行われていた。患者の血清の培養細胞では、ZIKVのRT-PCRおよびウイルス分離解析結果はいずれも陽性であり、ドナーと患者のZIKVゲノムを比較したところ、これらの2つの株は99.8%の相同性があった。本患者は、感染ドナーから得られた血液製剤の輸血を受けたが、本ドナーはZIKV感染後ウイルス培養期間にあり、臨床症状の発現前であったと考えられる。

ID	感染症(PT)	出典	概要
51	中東呼吸器症候群	Science Advances. 3(2017)	中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)が腸管から感染を起こす可能性が報告された。
52	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA ホームページ. https://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/default.htm	業界向けガイダンス「クロイツフェルト・ヤコブ病および変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の血液および血液製剤を介した伝播リスクを低減するための改訂予防対策」の改正案が提案された。欧州滞在歴における献血延期基準の変更や問診項目を変更する提案がなされている。
53	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Parasitol. 243(2017)273-278	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)では末梢組織にプリオンの感染力が認められるが、孤発型クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)ではプリオンの感染力は、主に中枢神経系に位置する。本研究では、異なるsCJD患者の死後の骨髄におけるプリオン感染性の存在を調べた。ヒトプリオンタンパク質を発現するトランスジェニックマウスにおけるバイオアッセイは、sCJD症例8例のうち7例に骨髄における高いレベルの感染力を明らかにした。これらの所見は、sCJD患者における血液媒介感染力の存在を説明し得る。また、sCJD患者の末梢組織におけるプリオン感染性の分布が現在考えられているより広く、医原性伝播リスクに潜在的な影響を及ぼすことを示唆している。
54	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSA Journal. 15(2017)5069	2016年に行われたウシ、ヒツジ、ヤギ及びシカにおける伝達性海綿状脳症(TSE)並びにヒツジの遺伝子型判定データベースに対するサーベイランス活動の結果が報告された。EUでは約135万頭のウシが検査され、スペインにおいて非定型BSE(H型)(H-BSE)1例、フランスにおいてH-BSE3例及び定型BSE(C-BSE)1例が報告された。C-BSEの1頭は、2001年にEU全体にわたり施行された飼料規制後に出産した個体であった。H-BSEの4頭はいずれも133カ月齢を超えた高齢ウシであった。
55	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2017/11/27	スペインにおいて、ウシ1頭におけるH-BSEが確認された。迅速検査、ウエスタンプロット法、ELISA法及び免疫プロット法を行い、2017年11月21日にH-BSEと確定された。当該検体はTSEサーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡または食用にと畜されなかったウシのサンプリング)より採取された。
56	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20171128.5468755	スペインにおいて、ウシ1頭におけるH-BSEが確認された。迅速検査、ウエスタンプロット法、ELISA法及び免疫プロット法を行い、2017年11月21日にH-BSEと確定された。当該検体はTSEサーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡または食用にと畜されなかったウシのサンプリング)より採取された。
57	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20170719.5189029	米国アラバマ州の11歳齢のウシ1頭において、非定型BSE(L型)が確認された。当該ウシは、アラバマ州の家畜市場における定期的サーベイランスにより発見された。米国のウシにおけるBSE症例は全て非定型BSEであり、今回の症例は20年以上のサーベイランスを行ってきた中で、特定された4例目の非定型BSEである。前回の発生は2012年であった。
58	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science translational medicine. 8(2016) 370ra182	微量の異常プリオンタンパクをフェムトモルレベルで検出可能なプラスミノゲンピンズキャプチャー法とPMCA(Protein Misfolding Cyclic Amplification)技術を組み合わせたアッセイ法を開発した。このアッセイは輸血による異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)伝播リスクを制限するために必要となる発症前診断の可能性を示す。
59	プリオン因子検査陽性	J Gen Virol. 98(2017)2628-2634	スペイン由来のスクレイピー分離株のウシ大脳内接種による実験感染で、臨床症状発現と中枢神経系以外の末梢組織に病原性プリオンタンパク質が検出された。
60	梅毒	第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 (2017/10/31-11/02) S6-4	日本における梅毒の年間報告数は、2011年頃までは500~900例で推移していたが、2012年頃から増加し、2016年には4559例(男性3174例、女性1385例)が報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
61	カンピロバクター感染	ProMED-mail 20170907.5301804	カナダにおいて、2例のCampylobacter jejuniの陽性例の報告があり、2例ともローストポークが出された同じイベントに参加していた。地方保健局の調査で、このイベントに参加した82名のうち、74名に聞き取り調査を実施し、33%が体調不良を経験していた。
62	クラミジア感染	Epidemiol Infect. 145(2017)2701-2703	近年発見されたChlamydia gallinacea (C. gallinacea) が北米に存在するかどうか明らかにするためアラバマ州の裏庭飼育家禽を調査した結果、C. gallinacea特異的PCRでニワトリおよびホロホロチョウ由来の試料が陽性であった。今回初めて北米にC. gallinaceaが存在することが確認された。
63	マイコプラズマ感染	Reuters Staff. https://www.reuters.com/article/us-newzealand-dairy-disease/new-zealand-to-test-dairy-farms-nationally-for-cattle-disease-idUSKBN1F035B	2017年7月、ニュージーランド南島のSouth Canterburyでウシマイコプラズマ感染陽性例が初めて確認された後、ニュージーランド国内の14酪農場で感染陽性例が認められた。2017年12月、第一次産業省は、ウシマイコプラズマ感染症が初めて北島の農場まで拡大したと発表した。
64	アメリカ・トリパノソーマ症	AABB Annual Meeting(2017/10/07-10)C91-A04C	各血液成分の保存条件下における Trypanosoma cruzi 原虫の生存について調査したところ、血小板の保存条件が最も原虫の生存に適していた。原虫が高濃度で存在する場合は、4℃保存の赤血球中においても最長3週間生存した。また、白血球除去処理は感染予防の手段となり得る。
65	マラリア	Lancet Glob Health. 5(2017)e1038-e1046	リオデジャネイロ州の大西洋岸森林地域で、これまでサルにのみ感染すると考えられていた Plasmodium simium が、人獣共通感染するマラリア原虫であることが明らかとなった。
66	マラリア	ProMED-mail 20170618.5113634	ベネズエラのボリバル州、Ciudad Guayanaにおいてマラリアのアウトブレイクにより3例が死亡した。Ciudad Guayana地域ではマラリアの進行がかつてないレベルで継続している。Guayanaの市長は2017年6月5日のプレスリリースでマラリアはGuayanaの人口の50%以上に影響していると述べた。Ministry of Healthの疫学報告書によると、2015年から2016年の間に全国を通じてマラリア感染例が76.4%増加し、ベネズエラで合計240613例がマラリアに罹患している。感染例のうち177619例がボリバル州に住んでいる。
67	マラリア	Transfusion. 56(2016)2221-2224	マラリアについて献血血液をスクリーニングするFDA承認のテストがないため、予防は高リスク血液ドナーの献血延期のみに頼っている。今回の報告では、患者は最近の海外渡航歴やマラリア曝露歴はなかったが、過去に輸血された血液製剤のうち1つの参照検体にマラリア原虫陽性が認められた。本検体のドナーの移民からマラリア伝播の間に15年が経過しており、このドナーに対しては現行のいかなる延期期間も適用外であった。
68	線虫症	BMC Vet Res. 13(2017)384	Capillaria hepaticaはCapillariidae科の人畜共通感染性センチュウで世界中に分布している。主要宿主は齧歯動物と考えられているが、稀にヒトを含む他の哺乳類に感染する。これまでウマへの感染例はイギリスとカナダの2頭しか報告されていないが、今回日本で初めてのウマへの感染例が認められた。
69	レプトスピラ症	日本小児科学会雑誌. 121(2017)457-457	北海道におけるレプトスピラ症の初の報告事例。12歳男児、8日間続く発熱を主訴に入院。両側腓腹筋の自発痛を認め、ペットのハムスターが入院日に死亡したことから、レプトスピラ症を疑った。初回病原検査は全て陰性であったが、61病日に患者の血清及び尿の顕微鏡下凝集試験を依頼し、Leptospira Copenhageniiが陽性となり診断が確定した。